平成２４年 ７月３０日

役 員 会 会 議 次 第

日 本 測 量 者 連 盟

１． 開　　会

２． 会長挨拶

３． 議　　題

（１）平成２３年度事業報告及び決算報告

（２）平成２４年事業計画（案）及び予算（案）

（３）役員の改選

（４）国際会議出席報告

（５）その他

４． 閉　　会

（資料 1）

平成２３年度　事業報告

日本測量者連盟

年　　月　　日	内　　容
平成２３年５月１３日	講演会 ①『インドア測位とは何か』 講　師　岡　本　　修　（第６分科会委員長） ②『東日本大震災の教訓』 講　師　村井　俊治　（会　長）
平成２３年５月１８日～２２日	ＦＩＧ総会（マラケシュ） 出席者　西　　修二郎（総幹事）
平成２３年７月２１日	平成２２年度　監事監査
平成２３年７月２５日	役員会 平成２２年度事業報告・決算報告 平成２３年度事業計画（案）・予算（案） 役員等の改選 その他
平成２３年７月２５日	活動状況報告会 ①『ＦＩＧ２０１１総会マラケシュ［全体概要］』 報告者　西　修二郎（総幹事） ②『ＦＩＧに参加して』 報告者　塚原　弘一（第５分科会委員長）
平成２３年９月２５日～ １０月１日	第７部会総会『災害対応と地籍 2.0』（オーストリア） 出席者　海津　優　（第７分科会委員長）
平成２３年１１月２４日	講演会 ①『高分解能ＳＡＲ衛星等による国土モニタリング』 講　師　高岸　且 ②『災害対応と地籍 2.0』 講　師　海津　優　（第７分科会委員長）
平成２４年３月９日	日本測量者連盟編集委員会

（資料 2）

平成23年度決算報告

日本測量者連盟

（自　平成23年4月1日至　平成24年3月31日）

1. 収入の部

（単位:円）

科目	決算額 (B)	摘要
団体会費	1,338,000	国建協5万，研修センター5万，全測連30万，
法人会費	115,000	測専教10万，水路協22.5万，日測協30万，
個人会費	82,000	測技協11.3万，地調協5万，日調連15万（9団体）
預金利息	911	法人会費　23口（1口5,000円）
前年度繰越	1,538,686	個人会費　41口（1口2,000円）
合計	3,074,597	

2. 支出の部

科目	決算額 (B)	摘要
消耗品	4,725	
旅費	1,381,559	FIG総会・国際シンポジウム H23年度 モロッコ・マラケシュ/第7部会総会 チェコ H24年度 ローマ 登録費用・渡航補助費
郵送料	39,450	請求書・会議案内発送・郵便振替手数料他
会議費	26,760	役員会・編集会議等
編集費	120,000	JFS・HP掲載原稿料
印刷費	0	
事務委託費	300,000	日本測量協会へ（事務所使用料を含む）
FIG会費	219,076	FIG本部への納入金
分科会費	0	分科会活動費
研究開発費	0	
資料収集費	0	資料収集他
雑費	504	
予備費	0	
合計	2,092,074	

次年度繰越金

収入	支出	繰越金
3,074,597	2,092,074	982,523

（資料　３）

平成２４年度　事業計画（案）

日本測量者連盟

年　　月　　日	内　　容
平成２４年５月５日～１２日	ＦＩＧ総会（ローマ） 出席者　西　修二郎（総幹事） 発表者　村井　俊治（会　長） 永山　透（国土地理院） 山際　敦史（国土地理院） 平田　更一（第３分科会委員長）
平成２４年７月２６日	平成２３年度　監事監査
平成２４年７月３０日	役員会 平成２３年度事業報告・決算報告 平成２４年度事業計画（案）・予算（案） 役員等の改選 ＦＩＧ総会（ローマ）等の報告 その他
平成２５年３月	日本測量者連盟編集委員会
平成２５年３月	ＦＩＧ国際会議出席（ナイジェリア・アブジャ）

（資料 4）

平成24年度 予 算（案）

日本測量者連盟

（自 平成24年4月1日至 平成25年3月31日）

1. 収入の部

（単位：円）

科 目	平成23年度 (A)	平成24年度 (B)	増減額 (B)－(A)	摘 要
団 体 会 費	1,388,000	1,288,000	△ 100,000	研修センター5万，全測連30万，測専教10万
法 人 会 費	125,000	115,000	△ 10,000	水路協22.5万，日測協30万，測技協11.3万，
個 人 会 費	78,000	78,000	0	地調協5万，日調連15万（8団体）
預 金 利 息	4,649	900	△ 3,749	法人会費 23口（1口5,000円）
前 年 度 繰 越	1,538,686	1,282,523	△ 256,163	個人会費 39口（1口2,000円）
合 計	3,134,335	2,764,423	△ 369,912	

2. 支出の部

科 目	平成23年度 (A)	平成24年度 (B)	増減額 (B)－(A)	摘 要
消 耗 品	10,000	10,000	0	文房具・封筒 その他
旅 費	900,000	1,100,000	200,000	FIG総会・国際シンポジウム（イタリア・ローマ/ナイジェリア・アブジャ）
郵 送 料	50,000	50,000	0	請求書・会議案内発送・郵便振替手数料他
会 議 費	30,000	30,000	0	役員会・編集会議等
編 集 費	100,000	100,000	0	JFS・HP掲載原稿料
印 刷 費	0	0	0	
事 務 委 託 費	300,000	600,000	300,000	日本測量協会へ支払（事務所使用料を含む） ＊平成23年度未払金を含む（24年4月5日支払済）
F I G 会 費	230,000	230,000	0	FIG本部への納入金
分 科 会 費	200,000	200,000	0	分科会活動費
資 料 収 集 費	80,000	80,000	0	資料収集他
雑 費	50,000	50,000	0	
予 備 費	1,184,335	314,423	△ 869,912	
合 計	3,134,335	2,764,423	△ 369,912	

3. 特別積立金

科 目	前年度積立金 (A)	繰越金 (B)	増減額 (B)-(A)	摘 要
積 立 金	2,000,000	2,000,000	0	東京都民銀行定期預金

（資料　５）

平成２４年　７月３０日

役員等の交替について（案）

日本測量者連盟
（順不同・敬称略）

【理　　事】

◎　伊藤友孝（いとう ともたか）　【(一財)日本水路協会 常務理事】
（前任者：佐々木　稔）

◎　望月達也（もちづき たつや）　【(一財)全国建設研修センター 専務理事】
（前任者：岡　野　眞　久）

【監　　事】

◎　宮﨑清博（みやざき きよひろ）　【(一社)全国測量設計業協会連合会 事務局長】
（前任者：横　田　耕　治）

【編集委員】

各分科会委員長は編集委員を兼ねる

ＪＦＳ役員等名簿

平成２４年　７月３０日現在

（順不同・敬称略）

名誉会長	原田美道	元日本測量者連盟会長
顧問	井上英二	元（社）地図協会理事長
〃	金窪敏知	元（財）日本地図センター理事長
〃	田中宏明	国土地理院企画部測量指導課長
〃	中川一郎	元（社）日本測量協会会長
〃	大竹一彦	前（社）日本地図調製業協会会長
参与	星埜由尚	（社）日本測量協会副会長
〃	大嶋太市	法政大学名誉教授
会長	村井俊治	（社）日本測量協会会長
副会長	本島庸介	（一社）全国測量設計業協会連合会会長
理事	上條勝也	（財）測量専門教育センター会長
〃	瀬戸島政博	（社）日本測量協会専務理事
〃	伊藤友孝	（一財）日本水路協会常務理事
〃	望月達也	（一財）全国建設研修センター専務理事
〃	大塚冀一	（社）日本地図調製業協会会長
〃	谷岡誠一	（公財）日本測量調査技術協会理事
〃	竹内八十二	日本土地家屋調査士会連合会会長
監事	宮﨑清博	（一社）全国測量設計業協会理事・事務局長
〃	岩﨑昇一	（社）日本地図調製業協会理事・事務局長

第１分科会委員長	木村幸吉	サベイ技術士事務所代表
第２分科会委員長	馬場義男	（財）測量専門教育センター理事
第３分科会委員長	平田更一	日本大学非常勤講師
第４分科会委員長	金澤輝雄	（一財）日本水路協会審議役
第５分科会委員長	塚原弘一	（株）パスコ生産改革本部理事
第６分科会委員長	岡本　修	茨城工業高等専門学校 電子制御工学科准教授
第７分科会委員長	海津　優	（一財）日本建設情報総合センター ｼｽﾃﾑｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ部長
第８分科会委員長	谷下雅義	中央大学 理工学部都市環境学科教授
第９分科会委員長	海津　優	（一財）日本建設情報総合センター ｼｽﾃﾑｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ部長
第１０分科会委員長	佐田達典	日本大学 理工学部社会交通工学科教授

編集委員長	西　修二郎	（社）日本測量協会常任参与
編集委員	各分科会委員長	

総幹事	西　修二郎	（社）日本測量協会常任参与
事務局長	髙橋谷造	（社）日本測量協会理事・事務局長
局員	木下信也	（社）日本測量協会総務部

編集委員会活動

■平成 23 年-24 年の HP 掲載原稿

1) FIG 会長の東日本大地震お見舞い： 訳： 西修二郎
2) インドア測位とは何か： 岡本　修
3) 東日本大震災の教訓： 村井　俊治
4) FIG 2011 マラケシュ報告： 西修二郎
5) FIG に参加して： 塚原　弘一
6) FIG に参加して： 出口　知敬
7) FIG 第 4 分科会活動計画： 金澤　輝雄
8) FIG 第 5 分科会活動計画： 塚原　弘一
9) FIG 第 3 分科会活動計画： 平田　更一
10) 高分解能ＳＡＲ衛星等による国土モニタリング： 高岸　且
11) 災害対応と地籍２．０： 海津　優
12) FIG 第 2 分科会活動計画： 馬場　義男
13) FIG 第 7 分科会活動計画： 海津　優
14) 地籍テンプレート： 海津　優
15) FIG ローマ大会への招待： 西修二郎
16) FIG2012 ローマ大会： 西修二郎
17) FIG2012 年ローマ大会に参加して： 永山透
18) FIG2012 年ローマ大会に参加して： 山際敦史
19) FIG2012 年ローマ大会に参加して： 平田更一
20) スリランカを訪ねて： 星埜由尚

■毎月連載

・ドクター村井の“新養生訓”23 年 4 月ー24 年 7 月：村井俊治

平成24年7月30日

FIG第7部会出席報告

日本測量者連盟第7部会委員長
海津　優（(一財）JACIC）

このたび海津が日本測量者連盟より派遣されて、平成23年9月26日より9月30日まで、オーストリア共和国インスブルック市郊外の、国立建設研修所において開催された2011年度 FIG第7部会年次総会に出席したので概要を報告する。

１．FIG第7部会について

FIG第7部会の守備範囲についてはFIGウェッブサイトに下記のように記述されている。

Commission 7 は

土地行政（土地管理政策の施行にあたり、所有権、地価、土地の利用に関する情報の、確定、記録および 情報提供すること）を取り扱う

土地所有権は、各種の権限（成文、慣習、非公式など）の範囲における土地保有の幅広い概念と受け取られるべきである。土地は 地下、地表および地上（建築物等）からなる

Commission 7 は、さらに

土地管理すなわち、農地改革、耕地整理、土地市場、土地課税、海洋資源管理等の広範にわたる土地政策の手法による土地政策の施行をも取り扱う

我が国では日本測量者連盟（JFS）第7部会が対応組織となっている。

２．会議の概要

プログラムは１２のセッションと国際公開シンポジウムからなっており（添付プログラム参照)、26日-29日にかけて、約50名が参加してＦＩＧとしての活動、ＷＧの報告、特に興味ある状況、災害における地籍の取り扱い、各国のレポート、建物の取り扱い、ＩＳＯ１９１５２（ＬＡＤＭ）の審議状況報告、ＷＧの活動方針の確認と提案、2014年以後の地籍に関するビジョン今後の関連する国際会議の予定など３７件の発表と討議が行われ、30日は地元測量学会との共催で、国際シンポジウム「地籍２．０」として約100名が参加し、10件の発表と討論が行われた。海津はセッション6「災害対応と地籍」において東日本震災とそれにかかる土地管理上の問題について発表した。このセッションでは、ニュージーランドからクライストチャーチの地震で市内に断層があらわれ、液状化も生じたことで、所有境界の扱いに苦慮していること、ハンガリーからは、鉱山の鉱滓プールの決壊に伴い汚染被害が生じた際、環境保全、避難、保障などで地籍データが数値的に速やかに利用できたことで対応が巧く行った事等も発表され、いずれの講演者も、休み時間や食事に際していろいろな国の参加者から質問が寄せられ、注目された。

３．災害対応ＷＧ

災害対応ＷＧの計画においては、日本、ニュージーランド、ハンガリーのほか、アイスランド、マレイシアなどの経験についてケーススタディ用の資料を作ることが好ましいとの意見が出て、ＦＡＯと協力して地震のみならず、風水害や地盤災害などについても事例を収集し、写真を交えて簡単に記述した資料を作り、途上国の関係者の訓練にも役だてることとなった。この際、途上国での地図整備が必ずしも良くないとの意見があり、海津より同じ国連で、地球地図プロジェクト（国土交通省及び地理院が深くかかわっている）があるので活用すべきであると発言し、フランスからの参加者等から支持された。

４．注目すべき傾向

今回の会議で特に注目すべきは、現状ではまだ精度に難があるものの、測位機能と通信機能を有する i-phne や i-pad に代表される道具が発達し、オープンストリートマップのようなものと組み合わされると、従来の地籍調査よりはるかに速く、よりリアルタイムの情報が非正規的にあふれてくる可能性があることに多くの関係者が注目し、その可能性と、所有権の保護上の問題点が討論されたことである。「地籍２．０」は、まさにこれに特化したシンポジウムで、測量士のみならず、弁護士も出席して権利関係の懸念を表明する一方、ほっておけば非正規地籍の横行が止められないであろうとの指摘もあり、かなり厳しいやり取りがおこなわれ、大変興味深かった。もうひとつ注目されたのは地籍の 3 次元化で、韓国、マレイシア、オランダなどから建物の 3 次元記述について報告されたほか、オランダからはトンネルやマイクロ波アンテナを例に取り、地中あるいは空中に権利が設定されるのが適当である場合の管理境界、法的権利の境界をどのように設定し、地籍調査や登記で扱うのかとの問題提起があり、このため、今回の現場見学はカフスタイン市にある地方地籍局に加えて、トランスヨーロピアンネットワーク高速鉄道トンネル、インスブルック工区の工事現場を見学し、実際に緊急脱出口、が畑の中にあることや、トンネル内部を歩いてみることで、3 次元地籍について考えるという試みがなされた。

５．プロシーディング

発表された論文のうち、締め切りまでに提出があった論文（海津の報告を含む）についてはオーストリア測量学会誌の特別号としてプロシーディングにまとめられ、最終日に配布された。

付録　　気になったキーワード

今後の地籍について。

・精度
・オブジェクト指向
・３D,4D 地籍
・地面より社会
・貧困対策
・e-Gov. ただし金がない
・信頼性
・非政治性
・先端技術対応
・地籍とはドキュメントであり、管理とは過程である。

地籍２．０の議論

・課題としての　都市化、スラムの拡大、測量者不足、GNSS、
　モバイルフォンの普及、社会が地理情報に目覚めた、クラウド
・合理的でスケーラブルなソリューション
・直接携帯から課金すればちんけな汚職は根絶できる
・プロでもアマチュアでもない中間のものが増える
・コミュニティベースの品質保証⇒ラオス、カンボジア、アゼルバイジャン
・変化は常態であって、変化が遅くなると気付く
・ソーシャルメディアによるコンテンツ共有と低品質データのフィルタリング
・ボランタリな地理情報の信頼性、保管の問題、社会心理的な課題
・プロの SNS が役に立っていない。
・銀行は土地に興味がある。⇒データを皆で使えればよい
・どこから出たデータで、それは何に使ってよいのかをメタデータとして
　付加できるのは測量士
・クラウドは米国のように地図が入手しやすい国でも流行っている
　⇒官僚主義に対抗するだけでもないようだ（Very point Real time 海津）
・オープンデータは社会のために何ができるか？
・権利の保護という観点での地籍は２．０でどうなるのか
・災害対策には土地保有情報（Tenure）が大切
・被災後非合法スラムができて所有者の権利が侵害された例もある
・市民が中心というパラダイムは本物か？
・合法性

・正当性
・銀行が受け入れることができるか
・地籍レギュレータという概念
・ユビキタスに対応できない測量士はもう持たない
・社会的利益を保全する　制度を保全するのではない
・信頼と効率
・地目や建物はよいが境界ではまだ駄目だろう
・残念ながら大衆は馬鹿をするものであるから、レギュレータは必須→測量士

特別寄稿

FIGローマ大会と東日本大震災

西 修二郎

FIG 2012ローマ大会は，5月6日～10日の日程でローマのCavalieri　ホテルで開催された。96カ国，1500名の参加者があった。FIGの大会は毎年開かれ，世界の測量関係者が1000人以上集まる国際会議である。

1．スペシャルセッション

今回の会議で，日本測量者連盟はFIGに加盟して以来初めて特別代表団を派遣し，スペシャルセッションを開催した。これは東日本大震災という未曽有の経験に際して，日本の測量界がどのように対応したか，日本のgeospacial技術が地震をどのようにとらえたかを世界に知ってもらうためのものである。このスペシャルセッション開催の話は1年前のFIG2011マラケシュ大会に遡る。各国の代表者が集まるプレジデントミーティングの席で東日本大震災へのFIGから頂いたお見舞いに対してお礼を述べた際，TEO CheeHai FIG会長から日本の地震，ニュージーランドの地震，オーストラリアの洪水等大きな災害が頻発している。これらの災害に測量はどう対応したかを考えるセッションを企図してもいいのではないかという話があった。昨年12月にローマ大会のアブストラクト募集の際，FIG会長にこの話を確認したところ，アブストラクト提出状況を見て判断したいということだった。村井日本測量者連盟会長に話したところ，東日本大震災だけのスペシャルセッションを設けてくれるなら自分も発表するという。FIG会長とMarkku Villikka FIG事務局長にかけあったところ，今回日本だけのスペシャルセッションを開催することが決まった。後は発表者の確保である。国土地理院にお願いして，永山防災企画官(当時)，と山際測地技術調整官を派遣して頂くことができた。日本土地家屋調査士会連合会から南城さん，パスコからは吉川さん，あと村井会長と日本測量協会の平田さん(当時)の6名にお願いした。発表分野も国の対応から測地，リモートセンシング，GIS，地籍と測量全般をカバーできた。

最終的なスペシャルセッションの発表内容は以下の通りである。

スペシャルセッション会場の様子(会場にはFIG会長，IAG会長の顔も)

村井俊治	東日本大震災の教訓
永山　透	東日本大震災に対する国土地理院の対応
吉川和男	リモートセンシングによる震災監視
山際敦史	基準点の震災改訂
平田更一	GISの震災ボランティア活動
南城正剛	震災地籍図の改定

スペシャルセッションの発表には，FIG会長やIAG国際測地学協会会長も顔を見せるなど，50人程度入る会場は立ち見席も出るほどの盛況であった。日本測量者連盟がFIGに加盟して以来初めての日本のプレゼンスの場となった。

2．FIG

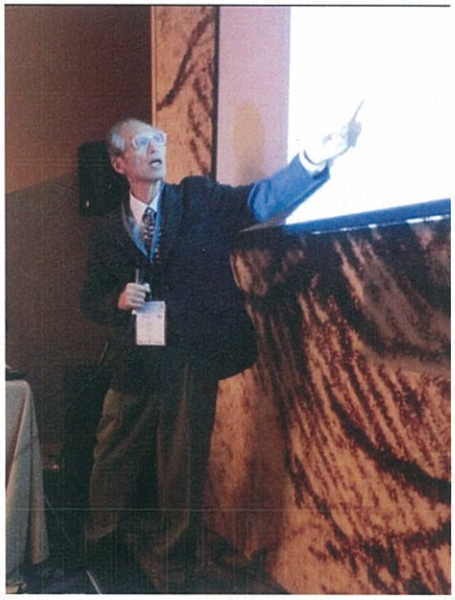
国際測量者連盟(FIG)は，全世界の測量者の利益を代表する国際的な組織である。その歴史は古く1878年にパリにて創設されている。正式名称はフランス語でFédération Internationale des Géomètresと表記され，その頭字語であるFIGがその略称である。現在FIGは国連で認められている非政府組織(NGO)であり，約100カ国の会員で構成されている。FIGの大きな目的は，地域や市場のニーズに合った測量が行えるようにすることである。FIGの活動は4年毎に作成さ

れるワークプランに沿って行われる。現在のワークプランは"能力開発"をテーマにかかげている。これは測量技術者が社会的，経済的な変化あるいは技術的，環境的な変化に対応できることに焦点をあてた計画であり，専門機関での測量教育強化や継続教育の推進により測量技術者が市場のニーズに応えられるようにすることに重点を置いている。

ただFIGのいう測量技術者は，日本で我々がふつう使う測量技術者よりはるかに広い概念を含んでいる。大雑把にいえば日本の測量士に土地家屋調査士や不動産鑑定士，更には都市計画プランナーまで包含したものということになろうか。この守備範囲の広さはFIGの中に設けられている分科会の構成によく表れている。分科会はFIGの技術的な活動を行うもので以下のように10の分科会に分かれている。

第１分科会：測量実務
第２分科会：測量教育
第３分科会：空間情報の管理
第４分科会：水路測量
第５分科会：測位と測定
第６分科会：応用測量
第７分科会：地籍測量と土地の管理
第８分科会：空間の計画と開発
第９分科会：不動産の評価と管理
第10分科会：建設経済と経営

FIGの活動の中心になるのは，総会で選ばれる会長と副会長で構成される評議会とその評議会の下にある分科会である。 その活動で特に重要なのは，定期的に開催される総会，年次会合の運営である。



スペシャルセッションでの村井俊治日本測量者連盟会長と永山透国土地理院北海道地方測量部長

FIG総会

これらFIGの活動の様子はFIGのHP(http://www.fig.net/)や分科会のニュースレター(www.fig.net/comm/comindex.htm)で入手可能であるので一度見て頂きたい。日本測量者連盟は，このFIGの日本における唯一の会員団体である。FIGの守備範囲の広さに対応して国内の８公益法人(国際建設技術協会，全国建設研修センター，全国測量設計業協会連合会，日本測量協会，日本水路協会，日本測量調査技術協会，日本地図調製業協会，日本土地家屋調査士会連合会)と企業会員および個人会員とで構成されている。その活動はHPに示されているので，こちらも是非見て頂きたい(http://www.jsurvey.jp/jfs/index.html)。

このFIGの会議は毎年行われており，来年はナイジェリアでの開催である。測量会社の技術者の皆さんには会社の宣伝を兼ねて是非会議への発表参加を検討してもらいたい。